

7月

睡眠時無呼吸症候群について

感染症内科部長・
アスベスト疾患センター長 **水橋 啓一**



当院では、令和6年4月より従来に比べ体への負担が少ない睡眠時無呼吸症候群の検査装置を導入しました。そこで今回は睡眠時無呼吸症候群について説明いたします。

睡眠時無呼吸症候群は、眠っている間に息が止まり、その後大きなイビキをかく事を繰り返し、それが原因で良い睡眠を得ることが出来なくなる病気です。そのため、昼間に眠気が生じ生活の質が低下するとともに仕事の効率も悪化します。更に、マスコミで報道されているように一部の交通事故の原因にもなっています。また、この病気をお持ちの方は、血圧が高くなる傾向があります。心臓病や脳卒中などを起こしやすくなるため、元気に生活出来ることが出来る期間、これを健康寿命と言いますが、この健康寿命が10年程短くなると言わ

れています。以下にこの病気の診療内容を大まかに記載します。

① 診察

問診や患者さんの体型なども含め、総合的に睡眠時無呼吸症候群である可能性、原因の推定および次に必要な検査法の選択を行います。

② 終夜睡眠ポリグラフ (Polysomnography : PSG) 検査

眠り込んだ時から目が覚めるまでの間に息が止まる回数等を調べる、睡眠時無呼吸症候群には必須の検査を行います。検査は自宅で簡易的に行う検査 (簡易 PSG 検査) と入院の上詳しく行う検査 (PSG 検査) の2種類あります。2つの検査にはそれぞれ利点と欠点があります。

通常は簡易 PSG 検査を行った後、入院で詳しい PSG 検査を受けて頂くことになる場合が多いです。入院時の PSG 検査は、これまで使用していた検査装置では、睡眠中にベッドの上で過ごしていただく必要がありました。しかし、新しい検査装置では室内ならトイレを含め自由に行動が可能となりました。

③ 検査結果を元に診断

無呼吸症候群か否か、加えてその重症度を判断します。

④ 診断結果に基づき保険診療で行える適切な治療を選択・提案します。

以下に該当する方は、無呼吸症候群の可能性ががあります。

1) 次のような症状をお持ちの方

昼間の眠気、特に中長距離運転中の眠気、眠気のみならず起床時から午前中の体のだるさ、頭痛や頭重感、朝方の高血圧、血圧を下げるお薬を服用しても血圧がなかなか下がらない方

2) ご家族から、いびきがとても大きいまたは呼吸が止まっている時があると言われている方

上記に記載いたしましたとおり、今春より当院では、入院で行う睡眠時無呼吸症候群の精密検査が楽に受けることが出来るようになりました。ご心配な方で、かかりつけの先生をお持ちの方は、相談されて予約の上ご来院ください。お待ち申し上げます。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院総合サポートセンター

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

(URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>)

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280 (病院代表)



富山ろうさい病院だよりのバックナンバーはこちらのQRコードからも確認できます。